

令和2年度 加古川「知」を結ぶプロジェクト 各チーム発表概要・所感・活動の様子

1)

- チーム名：岡村チーム（学内選抜チーム）
- 指導教員：岡村 こず恵（共通教育センター）
- テーマ：ボランティア学習を通じた小学生のシティズンシップ教育
～アフターコロナの地域にかかわる人材育成の提案～

■発表概要

加古川市への提案内容は「ボランティア学習を通じた小学生のシティズンシップ教育 ～アフターコロナの地域にかかわる人材育成の提案～」である。社会の役に立ちたいという人は6割以上いるが、「私の参加により社会は変わるか」との問いに、5割以上の若者が「そう思わない」と回答している。このことから、「役割を果たすことができる」という自分への期待、つまり「自己効能感」(self-efficacy;セルフエフィカシー)を高める必要性に着目して、加古川市内で主に命や人権を守る活動に取り組むNPO等を対象にヒアリング調査を実施した。地域住民へ十分に活動が認知されていない現状から、小学生に対する「ボランティア学習」を通じたシティズンシップ教育の導入を提案した。

■学生代表者所感

このプロジェクトを通して、様々な意見を持ったメンバーと一つの企画案を作り上げていく楽しさ、さらに難しさを学ぶことができました。各メンバーがとても豊かなアイデアを持っていたため、どのアイデアを選択するか、またどのアイデアをつなげていくかという点が、とても苦労しました。成功や失敗を重ねた結果、とてもいい提案を加古川市にすることができたとメンバー一同思っています。このプロジェクトで学んだことを今後に生かしていきます。

■活動の様子



2)

■チーム名：望月ゼミ

■指導教員：望月 徹（経営学部）

■テーマ：「ミズベリングの聖地」加古川の実現に向けて

■発表概要

加古川の豊富な水資産を活用し、「ミズベリングの聖地」加古川という「Core Attraction」を面的に形成し、他の地域と差別化しながら加古川の魅力創造を行う。発表では、寺家町商店街から加古川へ至る「ミズベリングストリート」を「河原地区」河川敷公園へつなぎ、「鹿児の庭・松風ギャラリー・鶴林寺地域」とあわせた一帯の三日月地域を「ミズベリングの聖地」加古川の核と位置づけ、具体の活性化案を提案した。これにより、将来、「ミズベリングの聖地」加古川は、ファミリー層を中心に老若男女多様な世代が集まり憩う全国屈指の場・地域となり、新たな投資を産む場ともなる。

■学生代表者所感

今回、私たちは、ゼミ活動の開始直後に、加古川プロジェクトに参加させて頂く形になりました。チームのメンバーの名前も性格も把握出来ていないまま始まりましたが、グループワーク、現地調査等を行うなかで、徐々にチームとしての基礎が固まってきました。みんなで右往左往しながらも切磋琢磨出来たことは、このゼミにとっての糧となりました。また、発表に向けて色々と調べて知っていくうちに、加古川に対する愛着が深まってきました。例えば、私は通学経路で加古川駅を通過しますが、加古川駅を通る際には、窓から街並みを必ず眺めるようになりました。今回この加古川プロジェクトに参加させて頂き、チームとしてもプロジェクトとしても、とても充実し、満足のいく期間を過ごすことができました。心より感謝申し上げます。

■活動の様子



3)

■チーム名 : 金坂ゼミ

■指導教員 : 金坂 成通 (マネジメント創造学部)

■テーマ : With コロナから考えるイベントの提案及び SNS を利用した観光資源の創出

■発表概要

加古川河川敷でのドライブインシアターの実施を提案する。コロナで娯楽への参加、来訪者、外出機会が減少し、精神的疲労を訴える人が増加している。そこで「感染対策×楽しい思い出づくりの提供」をコンセプトに考案した。独自アンケートでは 8 割を超える人が屋外での映画鑑賞に興味がある。実現にはクラウドファンディングで 100 万円を集め、吹奏楽イベント等と共催することを提案した。また、加古川市の認知度を向上するため、インフルエンサーの起用を提案した。具体策として既存のツーデーマーチにフォトコンテストをかけ合わせ、SNS を通じた共感型マーケティングを行うことにより隠れた観光資源を発掘し、観光振興に繋げることを提案した。

■学生代表者所感

私たちは加古川市の問題の本質を捉えることに困難を感じていた。目の前にあるたくさんのデータや情報に捉われ、調査研究が滞ってしまう。そんなときに、現地への「実地調査」が私たちの視野を広げる契機となった。加古川市を訪問し、半日以上サイクリングを行った。SNS 等を利用してアンケート調査を行ったことで、私たちの仮説が妥当かどうかを肌で感じることができ、最終的な政策提言に行き着くことができた。この経験により、私たちは、日々インターネットに「安易な解答」を与えられ過ぎていて、改めて疑問を抱き、その答えを得るために現実の世界で行動することができなくなっていると気づいた。溢れる情報の真偽を確かめ、物事の本質を捉える力を伸ばすことの重要性を学んだ。

■活動の様子



4)

■チーム名：岳ゼミ

■指導教員：岳 五一（知能情報学部）

■テーマ：防災機能を備えた「加古川スマート観光サポートシステム」による安全で安心な加古川市の観光振興

■発表概要

「加古川市の安全で安心な観光振興」を目指し、観光施設や商業施設の情報だけでなく、WEB上のリアルタイムな災害情報や避難所情報等の多様な情報を利用者に提供し、また、各観光施設や避難所までの即時の案内が可能な、「加古川スマート観光サポートシステム」を構築しました。更に今年はコロナ禍の情勢を踏まえて、「オンライン観光」の実現を目指し、在宅でも観光現地の様子を楽しめる観光施設の案内機能を実装し、4か国語でのコンテンツの発信を可能にしました。そして、本システムの利用者に対してアンケート調査を行い、87%の利用者が「今後も利用したい」と回答し、本システムの有効性・有用性が確認できました。

■学生代表者所感

本システムを構築する中で、WEB上のリアルタイムな情報発信を行う際、どのような情報を発信するのが利用者にとって良いのかを模索してきました。今回は、災害情報のリアルタイム発信を目指し、気象庁で発表されている気象警報を発信することにしました。一方で、利用者から頂いたアンケート回答の中で、「他の情報として、混雑情報や交通情報等を発信してほしい」等、多くの貴重なご意見を頂きました。コロナ禍のような状況で加古川市を楽しんでもらうため、動画や多国語案内の情報発信にも力を入れました。今後、これらの意見を取り入れ、システムの高度化を目指し、システムの実用性・使用性の向上に努めたいと思っております。

■活動の様子

